

# 教育学部

## 学習社会ネットワークプログラム

取得できる学位 ★学士（人間科学）

### ■ プログラムの概要

本プログラムの授業科目は、①生涯学習の理念や関連する教育行政について学ぶ「基礎科目群」、②生涯にわたる人間の発達プロセスや学習課題について学ぶ「生涯学習科目群」、③現代社会の問題群をとらえる理論的な視角を学ぶ「共生学習科目群」、④学習情報へのアクセスと分析に必要なスキルを学ぶ「文化学習科目群」、の4つに区分される。

履修生は、4つの科目群の履修により幅広い学術領域における専門的な研究の先端的知見を吸収する一方で、そうした知見を全学共通科目や自由科目の履修を通して涵養される基礎的教養と燃りあわせ、将来の社会生活における認識と行動に際して参照・準拠する自前の枠組を構成していく。

### ■ 人材育成目標

本プログラムは、社会の要請に応える「生涯学習」のプログラムを企画立案する構想力を持ち、「学習者」どうしの連携的関係の構築にねばり強く取り組んでゆく人材の育成を目指している。

### ■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 「生涯学習」というコンセプトの思想的・歴史的背景を正しく理解し、説明できる。
- b) 現行の生涯学習制度や行政システムの概要を正しく理解し、説明できる。
- c) 生涯にわたって展開される人間の学習プロセスを正しく理解し、説明できる。
- d) 教育機関の内外で展開される人間の学習プロセスを正しく理解し、説明できる。
- e) 現代社会の特質を正しく理解し、説明できる。
- f) 現代社会の諸問題を正しく理解し、説明できる。
- g) 学習情報の探索・利用法を正しく理解し、みずから実行できる。
- h) 学習情報の収集・分析法を正しく理解し、みずから実行できる。

### | 2 | 当該分野固有の能力

- a) 「生涯学習」というコンセプトの思想的・歴史的背景に関する知識・理解を、現行の生涯学習制度や行政機構という制約条件のもとで実際に活用できる。
- b) 生涯学習制度や行政機構の現状に関する知識・理解を、「生涯学習」というコンセプトの思想的・歴史的背景に関する知識・理解と突き合わせ、批判的に検討・評価することができる。
- c) 現代社会の特質に関する知識・理解を個別具体的な社会問題の解釈に活用し、事態を的確に把握することができる。
- d) 現代社会の諸問題に関する深い知識・理解を獲得し、社会についての知識・理解をたえず更新することができる。
- e) 学習情報の探索・利用法に関する知識・理解を活用し、みずからの学習を深めてゆくことができる。
- f) 学習情報の収集・分析法に関する知識・理解を活用し、みずからの学習内容をたえず更新することができる。
- g) 社会や社会の成員の希望・必要・要請に的確に応える学習プログラムを企画立案し、実行に移すことができる。

### | 3 | 汎用的能力

- a) 豊かなコミュニケーション能力。
- b) 円滑・円満な人間関係を構築する力。
- c) 大勢に流されず、自分なりに思考し、ものごとを実行する力。
- d) 大局的な状況判断を適切に下すことのできる幅広く深い見識。
- e) みずから取り組んだ作業の成果を他者に伝える言葉で発信する力。

### | 4 | 態度・姿勢

- a) 生涯学習社会の拡充を適切にサポートするための十分な知識と見識を備えている。
- b) 目的を設定し、そこに到達するためにねばり強く前進する姿勢を備えている。
- c) 他者の意見を真摯に聞き届けたくうえで、自分の見解を率直かつ明確に述べる姿勢を備えている。

## ■ プログラムの履修要件

- ・人間の持つ発達のポテンシャルについて強い関心と深い信頼を抱いていること。
- ・現代社会で解決が望まれている諸問題について幅広く関心を持ち、そうした関心を深める意欲を持っていること。
- ・生涯学習社会の実現に寄与することに強い熱意を抱いていること。

## ■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

- ・1、2年生：①生涯学習体系および生涯学習行政の基本的知識を概説する講義を必修科目として課す。②グループワークを中心とする演習形式の授業を実施する。
- ・2、3、4年生：「学習社会」の構想に必要な視座を専門的に追究する授業を選択科目として提供する。
- ・3、4年生：研究室に配属され、担当教員の指導を受けながら「卒業研究」に向けた学習に取り組む。